

~「子どもだけど大人」「大人だけど子ども」な人たちへのメッセージ~

LITTLE BIG

第39号 2008.12.12

発行:福島県立図書館 こどものへや

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

kodomo@library.fks.ed.jp

<http://www.library.fks.ed.jp>

【Pieces - かけらたち -】本の中の言葉

基 本的に生きてるほうが自然なんだよ、ぜったいそう。人の一生ってさ、地下からわきだした水が曲がりくねりながら流れ、しまいに海に溶けこむって感じじゃないか。その流れを意識的に止めてしまって、よほど大変な理由からでしょう。流れている最中の人にはとても理解がつかないほどの。

『蜜蜂の家』 加藤 幸子/作 理論社 2007.9 913/カ】

自 分のことを誰かが大事な友人だと思っていた。なのに、私はその相手のことをきちんとと考えていたとは言えない。一人で立っていられる自分が好きだなどと思い、相手より自分が一段上にいるような気分をどこかで感じていた。

傲慢。

とてもいやな言葉だが、自分自身を表現するのに適切なのはそれだ。

『力力才80%の夏』 永井するみ/作 理論社 2007.4 913/ナ】

神 様はわたしたち人間に、良くなる力も、悪くなる力もあたえました。それを選択するのはわたしたち自身です。そして、悪を選ぶ人がいる以上、わたしたちは、それを見つけだし、止めるために、力を合わせなくてはならないのです。(略)

そして、その目標に向かってみんなが力を合わせるかぎり、人類には、希望があるのです。

『ヒトラーのはじめたゲーム』 アンドレア・ウォーレン/著 林田康一/訳
あすなろ書房 2007.11 936/ウ

クリスマス【Christmas】

日本の一般家庭でクリスマスを祝う習慣が広まったのは、大正時代のことだそうです。キリスト教においては、キリスト生誕を祝う厳肅な“降誕祭”ですが、日本では楽しいイベントとしてすっかり定着し、本屋さんでも特設コーナーがつくられています。

『サンタクロースっているんでしょうか?』(中村妙子/訳 東逸子/絵 偕成社 1977.12)

は、111年前に、アメリカのニューヨーク・サン新聞が、バージニアという8歳の女の子からの質問に答えた有名な社説です。

バージニア、おこたえします。(中略)この世の中に、愛や、人への思いやりや、まごころがあるのと同じように、サンタクロースもたしかにいるのです。(中略)サンタクロースがいなければ、人生のくるしみをやわらげてくれる、子どもらしい信頼も、詩も、ロマンスも、なくなってしまうでしょうし、わたしたち人間のあじわうよろこびは、ただ目にみえるもの、手でさわるもの、かんじるものだけになってしまうでしょう。(中略)ただ、信頼と想像力と詩と愛とロマンスだけが、そのカーテンをいっときひきのけて、まくのむこうの、たとえようもなくうつくしく、かがやかしいものを、みせてくれるのです。そのようにうつくしく、かがやかしいもの、それは、人間につくったでたらめでしょうか?いいえ、バージニア、それほどたしかな、それほどかわらないものは、この世には、ほかにないのですよ。忙しい年末の心の大掃除にぴったりな一冊です。



ヤングアダルトコーナーにいかが？

~ 公共図書館、学校図書館などヤングアダルトコーナーの選書の参考に ~



ヤングアダルト世代になると、学校でも「進路」を考える時間が増えてきます。高校生ともなるといよいよ真剣に回答が求められます。まだまだ知識も経験もなく、かといって小学生の頃のように単なる夢だけでは計れないこともわかっているだけに、不安はつきません。そんなときにこそ、本を通して少しでも解決してほしいですね。定番『なるにはBOOKS』以外のものをお紹介します。

仕事をかんがえてみる本

『15歳からの「仕事」の教科書 医者のしごと』 聖路加国際病院院長 福井次矢 / 著

丸善 2008年

テーマの仕事内容がわかるのはもちろん、その職業の考え方、仕事場、生き方、問題に分けて、丁寧に解説しており、仕事への真摯な姿勢が伝わります。に『弁護士のしごと』が出ています。

『5教科が仕事につながる！ の時間』 ペリカン社 2007～2008年

「学校の勉強が何の役に立つの？」誰もが一度は思う疑問に答える全5巻シリーズ。中学の主要5教科プラス別巻で『保健体育の時間』『美術の時間』も出ています。各巻ともさまざまな職業の人々に取材しており、意外な職業にも興味がわくことがあるかもしれません。

『14歳になったら考える 地球を救う仕事 ~』 さば よしみ / 編著 汐文社 2008年

“国際協力”的仕事は幅広く、文化を紹介するような仕事もありますが、このシリーズは、平和な世界をつくりたい、貧しさをなくしたい、命を助けたい、苦しみから救いたい、というテーマで、困っている国や人々を手助けする仕事を解説しています。世界を仕事場として働くにはどんな仕事があるのか、どうしたら働けるのかなどがわかります。

将来をかんがえてみる本

『みえない未来相談室。すきなコトを仕事にする方法』 k.m.p / 著 河出書房新社 2008年

おとなになること、しごとをすることを、かわいいイラストで、著者ふたりの現在と過去をたどるように考えていく。優しい先輩に相談している気持ちで読めます。

『受験生の心の休ませ方』 加藤諦三 / 著 PHP研究所 2008年

“どのような選択をしても、生きるということは厳しいものである。それを覚悟で選択をすればいい。”、“高校3年生になって「なんで受験勉強するの？」と悩んでいるとなると、私は必ずしも同情できない”、“悩んでいる人は、別に受験をしなくてもよいということをまずしっかりと意識することである”。

少し厳しいですが、冷静に自分の気持ちを分析し、どう対処したらいいのかをきっぱりと教えてくれます。

